【産業建設常任委員会】

No.	市民からの意見・	回　答	担当課 （複数の場合は建制順）
(1)	大頭神社、妹背の滝に関して観光客が多く周辺の渋滞など近隣の迷惑が掛かっているが、何とかならないか。また神社に架かっている橋はかなり老朽化が進んでいるのではないか。	＜渋滞について＞ 令和７年度から、混雑解消を図るため、土日を中心に警備員を配置し、令和８年度からは、警備員の配置日数を拡大するとともに、大頭神社とも調整した上で、夏期のみの渋滞緩和事業に関する社会実験（駐車場有料化）を実施しています。 この社会実験により、来園者等の動向の分析や流入抑制（ライブカメラ設置・管理）、園内の環境改善（清掃頻度）の検討を進め、課題解決に向けて対応しているところです。 また、同時に市内には妹背の滝風致公園以外にも水遊びスポットが存在するため、市ＨＰや来園者へのチラシ配布により、他のスポットの周知に努め、混雑の分散と周遊を促しています。 ＜橋について＞ 公園利用者の安全確保の観点から、橋の状況を確認するとともに、橋の所有者である大頭神社と安全性の確認や必要な対応について協議していきます。	観光課 維持管理課
(2)	市道鳴川３号線の現在の進捗状況と工事完了の予定について。工事着手時に、地元説明会をするとの事でしたがどうなっているのか。	令和８年度は用地買収を進めているところであり、併せて、道路整備に支障となる県水道施設の移設工事を実施しています。用地買収の進捗状況によりますが、令和１３年度末の完了を目指しています。 令和３年１１月に事業説明会は実施しましたが、工事説明会については、用地買収の目処が立ち、本格的に工事着手する前に開催したいと考えています。	施設整備課
(3)	平良丘陵開発による近隣のオープン後の渋滞予測等はできているのか。また開発完了前に朝の渋滞緩和策を講じるべきで	計画段階において、造成に伴う各エリアの車の発生集中量を 18,600 台/日と推計していますが、県道廿日市環状線が西広島バイパスに接続することによって、国道 433 号への交通の影響は少ないと想定してい	都市活力デザイン課

	ある。	ます。 　しかし、開業時や大型連休などの期間においては、周辺の一時的な渋滞や交通量の増加も考えられることから、大規模小売店舗立地法に基づき施設運営者に対し適切な対応を求めるほか、平良丘陵開発地内と最寄りの駅を結ぶバス路線の開設や渋滞情報の発信による通過交通の山陽自動車道への利用転換を促すことなどにより、周辺への影響を極力避ける手法も併せて検討しています。 　　既存道路のピーク時の渋滞緩和については、警察を含めた関係機関と協議を行うなど、適切に対応してまいりたいと考えています。また、造成に伴う渋滞が発生しないかなど、継続的に調査を行ってまいりたいと考えています。	
(4)	この運賃施策の効果についてだが、利用者増加や収支改善など、どのようなKPIを設定しているのか。	地域内運賃均一化、高齢者割引、運賃改定の３つの施策により、市自主運行バスと広電バスの利用者を合わせて、約４万人の増加（令和７年度との比較）を見込んでいます。 　また、高齢者の外出機会の促進による健康増進や免許返納の促進などの副次的な効果も期待されます。	交通政策課
(5)	宮島表参道に観光客が集中し、誘導策が必要ではないか。黒い門のを解放できれば海岸通りにも誘導が出来、混雑緩和になるのではないか。有事の際の安全確保がなされてないのではないか	海岸通りの門扉は、広島県が管理する施設であり、昭和の時代に広島県と地元商店街との協議を経て、現在の形態となっています。 現在は、宮島の観光客が集中した場合など、地元商店街において開門することで、通行の円滑化を図り、歩行者の混雑緩和に取り組んでいます。 また、門扉の鍵は、広島県、地元商店街及び市（消防・宮島支所）で管理しており、災害や事故などの有事の際には開門し、安全を確保できる体制を整えています。今後も、観光客の円滑な周遊と安全・安心の確保の観点から、関係者と連携して対応していきます。	観光課
(6)	地産地消の割合は	地産地消の割合は、市内の農林水産物を意識して購入している市民	農林水産課

	食料自給率は 一次産業の農業を子どもに継がせたくない人も多い。そのため休耕田もふえているが、耕作率も考えての政策はあるのか	の割合について、アンケート調査を毎年実施し、その割合は上昇傾向にあります。（R7 実績値 34.0％） 　食料自給率は、市町村別の公表はされていないが、国が掲載している食料自給率が簡易的に試算できる計算シートの試算結果は５％となっています。 　また、市の独自調査においても、「後継者不在の農家割合」や「その所有する農地の荒廃化」が課題であるという意見が多く、今年度見直しを行った市農業振興ビジョンの各種施策においても、「農業後継者の確保・育成」や「第三者継承のサポート」など、「新規就農者や農業後継者の確保・育成に向けた支援」を進めることとしており、こうした取組を通じて、耕作率の向上、魅力ある農業の確立を目指してまいりたいと考えています。	農業委員会
(7)	堂垣内広池山線は、いつから通行可能になるのか。中央線の工事の状況はどうなのか。	堂垣内広池山線については、市道中央線から新機能都市開発区域までの「山地部」と、市道中央線から国道４３３号までの「宅地部」に分けた供用開始を予定しています。「宅地部」については、令和８年度末の供用開始を目指しており、「山地部」については、新機能都市開発造成工事完成に併せるよう工事を進めていますが、実際の供用開始時期は新機能都市開発の進捗等により調整して決まります。 　市道中央線については、市道堂垣内広池山線の整備に併せ、交差部前後の延長約１５０ｍ区間について暗渠化を終えています。残る区間については、その後の計画となりますが、周辺に農地が点在しており、農業用水路として取水が必要な箇所があるなど課題があるため、市道堂垣内広池山線の供用後、交通量や土地利用など周辺環境の変化を踏まえながら、課題が解決したところから整備を進めていく予定です。	施設整備課